

私は八王子の高月水田と川町谷戸の田んぼの2カ所で毎月野鳥の定期カウントをしています。この写真は今年最後12月25日に川町谷戸で撮ったもの。梅の木の向こうに冬の田んぼが見えています。この日はカシラダカの群れやホオジロがカウントされました。この田んぼの農家からは里芋をお土産にいただきました。（粕谷和夫の観察日記より）

紅葉台



新聞

第219号

2026年

1月31日

発行人：関谷 孝

あんこに恋した偉人たちの話

大善寺が隔月で開く文化講座「お寺の学校」より



八王子小宮公園の近くに大善寺というお寺があります。俳人渡辺巴水の墓があり、隣接する富士見台霊園には松本清張の墓があるのも有名です。大善寺は文化講座を隔月に開催しています。（粕谷会長も大善寺で「身近な野鳥を知ろう」を10月に講演しました。）



今回、毎週発行されるタウンニュースで12月20日「あんこに恋した偉人たちの話」にしいあんこ先生（日本あんこ協会会長）があることを知り、あんこ愛に目覚めたこともあり、早速聴きに行ってきました。

最近あんこブームが到来し、日本全国に11000名を超える協会員（あんバサダー）があるのをご存知でしょうか。この日本最大のあんこ普及振興を目的とした協会団体を率いるのがにしいあんこ先生。これまで10000種類以上のあんこを食べてきた筋金入りのあんこ好き。令和あんこブームの火付け役で、各メディアにも出演し話題になっています。主な出演にTBS「マツコの知らない世界」や日本テレビ「ZIP!」などなど。協会の理念は「あんこを通じた世界平和の実現」を掲げ、主幹事業としてあんこによる地域振興を行っています。2023年からは農林水産省の国際砂糖普及プロジェクト「ありが糖運動」のアンバサダーを務めています。

さて前置きが長くなりましたが、今回の話は日本の歴史に登場する文豪、思想家等誰もが知る大偉人たち。意外にも彼らの中にあんこ大ファンがいるというお話に興味津々です。



まずは、**吉田松陰**。1830年生まれでストイックな性格。「夢なき者に理想なし。理想なき者に計画なし。計画なき者に実行なし。実行なき者に成功なし。ゆえに夢なき者に成功なし。」つまり、「**あんこなき者に夢なし**」と、あんこ先生が言う。

そのくらい吉田松陰は**大福が大好き**だった。江戸は大福がブーム。腹太餅と言われていたが縁起の良い大福餅となった。当時のあんこは今よりしょっぱかった。8代將軍。吉宗は砂糖を広めた。長崎シュガーロードと言うように砂糖を輸入し国産化したのである。松陰は大福を月に6回も食べた記録がある。

豊臣秀吉。天下人。千利休を茶道筆頭にした。禁中茶会(黄金の茶室)、北野大茶錠湯では800名もの大茶会をしている。**茶の湯**言えば、**和菓子文化**であることからあんこ文化を牽引したといえる。日本3大菓子処は、京都、金沢、松江である。当時秀吉は緑色の餅（鶯餅）を気に入り名前を付けた。大和郡山のローカルあんこメーカーの自家製蒸し羊羹が有名。今は寒天を入れるが、以前は紅羊羹だった。かつて東京本郷の名店「藤むら」



で昔ながらの紅羊羹を作っていたが、数年前に閉店している。

森鷗外。舞姫、高瀬舟が有名な作家。軍医でもあり美食家で知られている。明治から大正にかけて牛タン、佃煮、コロケ、ロールキャベツ、ドイツサラダ、フルーツコンポートとハイカラな食べ物食べている。**有名なのは葬式饅頭**である。これをご飯にのせ煎茶をかけて食べていた。のちに娘の森茉莉が書いている。饅頭茶漬は島根県でも有名である。島根出雲は10月を神有月という。あずきの赤は邪気を払う。神在もちから「ぜんざい」になったと言われる。昨年、津和野では、あんバサダーにより、あんこスタンプラリーで12のあんこスイーツをめぐるイベントが行われた。



徳川光圀。水戸徳川家の第二代当主。「大日本史」の編纂を



する。藩政改革と文化振興を進めた水戸学でも有名である。自らうどんを打つほどの筋金入りの食通だ。ラーメンを初めて食べたという。医食同源に興味を持ち、当時50歳の寿命であったが73歳まで生きた。京都中院通茂の古希の祝いに寿の文字を入れた饅頭を送った。そのことで**教養と思想に裏打ちされた究極のグルメ**ともいわれている。最近では、健康食にあずきが入り入れられ、注目されている。例えば、スポーツ羊羹、あんこバー、飲むあんこ、腸活あんこなどがある。麴を混ぜた発酵あんこも注目されている。



徳川家康。天下太平の礎を築いた。安倍川餅は、家康が名前をつけたといわれている。

また、江戸時代に6月16日に16個のお菓子を食べる「**嘉祥（かじょう）喰い**」という風習が定着した。この風習は明治時代に一度途絶えたが、1979年に全国和菓子協会が「和菓子の日」として復活させた。あんこ菓子は縁起が良いのです。三方ヶ原の戦いで武田軍が勝利したことが家康の生涯で最大の敗戦といわれている。その時の自分を戦役画像に描いたのは有名です。家康はその後、あんこの力で、天下統一したといわれています。

このようにあんこは歴史のなかの偉人にも愛されています。他にも**夏目漱石**や**松下幸之助**も**あんこ好き**で有名だったそうです。甘いもの食べると頭の回転が良くなり、それを食べることで日本を変えていく力になっていったのではないかと、あんこ先生は分析しています。

日本あんこ協会のホームページを見るとあんこ検定がある。これに10問答えると「あんバサダー」になれる。2026年3月に**品川プリンスホテル**で**あんこだらけのアフタヌーンティーを食べる企画**があるのでおでかけになってみては。小豆の赤は魔除け招福などの意味がある。ちなみに私もあんこ検定を受け、めでたく「あんバサダー」になった。今年も世界平和のため、そして自分の健康のためにもあんこを食べていきたい。

*にしいあんこ先生は西八王子在住。43歳。奈良県出身

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。